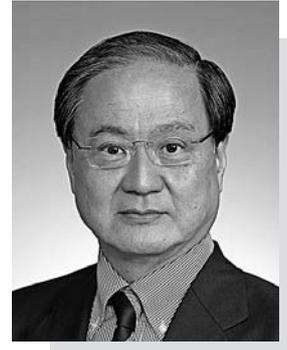


巻頭言

新年のご挨拶

建設機械施工分野の合理化に向けて

金井道夫



明けましておめでとうございます。

今年も、日本建設機械施工協会、並びに建設機械施工分野全般に対するご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新型コロナの感染状況はめまぐるしく変動していますが、諸外国を含め従来に近い社会経済活動や交流を行うケースが増えていると思います。WEB上の会議や活動は当然活用する一方で、直接のコミュニケーションの機会を増やして業務の遂行を図って行きたいと考えています。

建設機械施工の分野では、建設DX、i-Constructionなどの施策を強力に進めていく必要があると思いますが、関連して、若干の所感を述べたいと思います。これらのIT施策の推進には当然膨大なデータが必要とされます。たとえば、地形、地質、設計施工、建設機械の稼働など多くのデータが集約されて初めてIT化が有効に機能します。

データについて、たとえば英国の道路2025年のビジョンを見ると、

- ・すべての現場の建設パートナーが同じ情報源を使用....
- ・標準化されたデータベースへのアクセスにより、作業効率、設計精度の向上....

などのビジョンが示されており、費用の議論は別として、データ様式の統一、あらゆるデータの共有化をもとにデジタルツインが達成されると明記されています。この辺の議論は、ヨーロッパの道路施策で共通に見られる哲学のように感じます。

我が国の場合、当初「データは競争領域」が強調されたこともあり、競争領域にあるデータを共有するケースは少ないように感じます。当然、コストの分担などの問題はありますが、現場で同じ情報源を共有するシステムの構築は、将来に向けて不可欠と感じます。日本建設機械施工協会においても、施工段階における

データ利用プラットフォームとデータ交換標準の整備のために「施工データのAPI連携に関する協議会」を発足させました。幅広い議論の中で、課題を解決できればと思います。

関連して追加しますと、「AIで何でも出来る＝ベテラン技術者の判断を代替できる」という主張がなされることもあるようですが、今のベテラン技術者の判断をAIで代替することは、当面（未来永劫にとは言いませんが）不可能と思います。AI自体、元は、経験をもとに定式化したもので、経験の乏しい分野や新しい分野では、ベテラン技術者の判断が必要であることは今後とも論を待たないと思います。

また、MC/ MG建機によるイージーオペレーション化などにより施工の合理化を図るとしても、現場のオペレーターや整備工の確保が必要なことも継続的な課題です。ICT施工の導入により、安全で働きやすい現場に変えていくことも必要ですし、技能実習制度等により外国人の参入も、コロナに伴う入国制限にもかかわらず増加し続けています。継続的に国の施策を支援していきたいと思います。

一方、オペレーターや整備工の不足・高齢化も顕著になりつつあり、外国人技能実習生も、建設機械施工分野では新規入国に伴う受験者数が数年前の半分程度に減少しています。原因としては、コロナへの対応であったり、円安で我が国の給料の魅力が減少したなどいろいろ指摘されていますが、国内の若手人材確保のために、魅力ある職場環境の整備に向けて継続的に努力する必要があるようです。

簡単ではありますが所感を述べさせていただきました。本年も引き続き関係の方々との議論を通じて、建設機械施工の分野の合理化に取り組んで参りたいと思います。よろしくお願い致します。